

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町受理日	平成24年7月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の建物は、現代建築による高い天井・天窓からの自然な光や風を取り込むことができ、開放感にあふれ明るく心が和む造りとなっています。利用者の状況は日々によって変化はありますが、出来るだけ優しく寄り添い、秀東館の理念である現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、一つ屋根の下でそれぞれ違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私達の父であり母である。また利用者同士は兄弟姉妹でもある。私達が目指す“大家族主義”の理念を基に、共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護、日常生活上のお世話をを行い、能力に応じ自立した生活が営んで頂けるよう取り組んでいます。また、ご家族や地域の方も自由に出入りが出来るよう、施設内外一切施錠せず閉鎖感のない開放された体制をとっています。地域に密着した開かれた施設として、誰でも自由に立ち寄って頂けるよう、一層努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者と職員と一緒に食材を買いに行かれ、野菜の下ごしらえや調理、味見、配膳、下膳、茶碗洗いなど、利用者のできることを職員と一緒にこなっておられます。職員は利用者と同じ食卓を囲んで同じものを食べ、会話をしながら、食事を楽しめるように支援しておられます。利用者の誕生日には希望を献立に取り入れられたり、毎月1回外食をされるなど食事が楽しみになるように工夫されています。事業所には月2回傾聴ボランティアの訪問があり、利用者は話を聴いてもらうことを心待ちにされています。習字や演芸のボランティアの訪問もあり交流しておられます。事業所は、日中、開放的で自由に出入りできるようにしておられ、予測されるリスクを職員の見守り方法の徹底や言葉かけを工夫することのほか、地域の協力も得られており、鍵をかけないケアに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“大家族主義”の理念の下、虹が目指している“あなたの笑顔と一緒に暮らしたい”の介護ができるよう家族の温かさを大切にして、優しく寄り添えるよう、入社時に新人研修を行い理念の浸透を図り、ミーティング等で理念の再確認を行っている	「入居者の方が地域の中でその人らしく、毎日おだやかな生活が過せるよう家庭の温かさを大切にし、家族として寄り添います」と地域密着型サービスとしての事業所の理念をつくり、掲示し、ミーティングで確認して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の情報発信として地域へ回覧し、行事等への参加を呼びかけている。また地域住民の一員として敬老会や清掃活動に参加している	毎月1回地域向けホーム便りを発行し、自治会(7班)に回覧して、行事の参加等を呼びかけ、運動会やクリスマス会、ソーメン流しなどに地域の人や子どもの参加があり、利用者と交流している。ボランティア(傾聴、習字、演芸など)の来訪があり、利用者の喜びにつながっている。散歩時の声かけや近所の人から野菜をもらうなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等において、施設内で行った研修報告し認知症の人の理解や支援の方法について協議している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価が活かせるよう全職員に説明・報告し、改善方法等は検討する等、向上に向けて取り組んでいる	評価の意義については管理者がミーティングで説明している。管理者が作成した自己評価を、職員に提示し意見を求めているが意見はなく、全職員で評価に取り組むまでには至っていない。	・全職員による自己評価の実施 ・評価項目の理解と評価の活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において民生委員や地域住民・ご家族へ向けて評価の報告を行い、意見交換してし、サービスの質の向上できるよう取り組んでいる	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況、活動報告、行事案内などをし、感染症、転倒事故防止、口腔ケア、避難訓練などについて意見交換をして、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を立ち上げ、行政との意見交換や情報交換の場を設け、情報入手や相談・助言頂き、相互に協力関係が築けるよう取り組んでいる	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会の総会で市との意見交換や情報交換を行っている。日々における疑問点などは電話で聞いたり、出向いていくなど、連携に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の言動を制限する行為について説明・確認し合い、日々の反省を基に身体拘束しないケアに取り組んでいる。また日中は施錠せず開放的なケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて年1回内部研修を実施し、職員は身体拘束について正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。日々のミーティングにおいてスピーチロックなど気づいたことを説明し、確認している。玄関は施錠せず、各部屋からも自由に入出りできる。地域の通報の協力もある。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止として資料作成し、研修会を行う等虐待が見過ごされることがないように注意している		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ学ぶ機会を設けようと考えている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には施設見学して頂き、生活状況の雰囲気を感じて頂いている。不安点や疑問点には十分な説明を行い、理解が得られるよう取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に相談・苦情受付ができるよう信頼関係作りに努めている。また苦情については第三者委員を専任し、速やかに対応できる体制作りしている	面会時に家族から意見や要望を聞いている。行事に併せて家族会を年1回行い、家族だけで自由に話し合う時間を設け、そこで出た意見を運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議を設け、職員の意見や提案を提示し回答については報告する体制をとっている	月1回の全体会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞いている。法人内の月例幹部職員会議に職員の意見や提案を提示し、協議の結果を職員に伝え、意見を運営に反映させるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況把握し、働きやすい環境作りしている。また職員が向上心を持って働けるよう就業規則等も提示している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にテーマを決めて研修する等、向上が図れるよう進めている。また同系列施設間の交流として、専門分野の情報を公開・伝達し、実践できるよう研修をしている	毎月テーマを決め、内部研修を行っている。研修後レポートを提出し理解を深める取り組みをしている。外部研修の情報を把握し、年間計画を職員に周知して、受講の機会を勤務の一環として提供している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡協議会を通じ同業者との交流を図り、意見交換や情報の共有し、サービスの質の向上できるよう取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問や面接を行い、本人自身と関わりを持つよう努めている。個別に傾聴し本人が安心できる関係作りしている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前訪問や面接を行い、家族の意向を伺う。また入居後は安心していただけるよう相談・報告しながら、信頼できる関係作りに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に応じた支援を見極め、情報の提供を行っている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の経験や得意なことが活かせる活動に参加し、存在価値を見出すことにより暮らしを共にできる関係を築いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活できるよう、家族と共に本人を支えていく関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向をふまえ、本人の気持ちが尊重できるよう、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している	友人が面会や、車で自宅周辺などの馴染みの場所に行ったり、家族の協力を得て、馴染みの理美容院の理容や墓参りなどの支援を入れている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう配慮し、時には職員が介入して他の関わりが持てるような支援に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、本人・家族の経過をフォローし、相談等受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の望んでいることを日々の関わりから探りながら、本人本位に検討して、時にはご家族の協力を得ている	日々のかかきありの中で、利用者の声を聞きとったり、利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、行動や表情から汲みとり、ケース記録に記録し、ミーティングで検討して、思いの把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た生活環境・生活歴や病歴の情報は職員全員に提供し、情報の共有化に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方等や心身状態の特記事項は記録し、ミーティング等において申し送りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族に現状報告し、家族の意向を確認している。意向に基づき職員間で統一したケアができるようモニタリングしながら、介護計画を作成している	利用者の状態や要望、家族の意向などをミーティングで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、年1回見直しや状態の変化に応じての見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果等は個別に記録し、会議において情報の共有化し、見直しに活かしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、既存のサービスに捉われないよう柔軟な支援に取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、学生による福祉体験学習、ボランティアの交流を持ち、暮らしを楽しめるよう工夫している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や以外のかかりつけ医と連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。協力医においては、施設への往診を受けている	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医への受診の支援をしている。協力医の往診(月1回)や歯科医の訪問診療(2ヶ月に1回)など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医との連携の上で、日常の関わりの中でとらえて情報や気づきを看護師等に伝えて相談し、適格な助言や指示をいただいている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には利用者の情報提供しスムーズに治療できるよう協力している。また定期的に訪問し今後の方向性の確認している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針や同意書は作成している。早い段階で家族の意向確認し、関係者全員で検討し方針を統一している	重度化の対応についての事業所の方針を契約時に家族へ説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族の意向を確認し、医師と相談し、事業所としてできることを検討して、関係者で話し合い共有して支援に取り組んでいる。これまでに1回看取りを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時マニュアルを基に定期的に研修を行い、緊急時の対応実できるよう、また実践力を身につけられるよう努めている	事故・ヒヤリハット報告書に記録して、すぐにその場にいる職員で対応策を話し合い、月1回の全体会議、ユニット会議で検討して、介護計画につなげるなどして、事故防止に取り組んでいる。救急救命法を受けている職員もいるが、全職員を対象にしての応急手当や初期対応の定期的な訓練は不十分である。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民も交え、年2回避難訓練施行している。地域住民は脱出後の見守りという役割分担して、協力体制を築いている	年2回、地域の人の参加も得て、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。地域との協力体制を築くため、運営推進会議で自治会長等と話し合っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、思いやりのある言葉かけや、優しい対応を心がけている	マニュアルがあり、ミーティングで接し方や声かけについて話し合いを行っている。日々の声かけで気付いた時には、管理者が対応などの指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を基に、自発的に行動したりと決定権のある生活を心がけている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にして強要しないよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎、散髪の出張サービスを利用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳は職員と共に行い、同じテーブルにて共に食事している。誕生日会等では、本人の希望を取り入れたメニューとしている	三食とも事業所で食事づくりをしている。野菜の皮むきや調理、配膳、味見、下膳、食器洗いなど利用者は出来ることを職員と一緒にやっている。職員は利用者と同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をしながら食事を楽しめるように支援している。利用者の好みや一人ひとりの状態に合わせた料理の形態、誕生日は本人の希望のメニュー、行事に合わせた食事、外食など食事が楽しみになるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がたてた栄養バランスのとれた献立を基に調理し、食事や水分摂取量はひと目で判る記録方法をとっている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科協力医の指導の下、食後のケアも個々の能力に合わせ介助している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンが把握できるよう記録している。個々の状態に合わせ、さりげない声かけや誘導により、トイレで排泄できるよう努めている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄の支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や確実な水分補給し、排便の促している。かかりつけ医との連携を図り、便秘しないよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2日に一度の入浴している。利用者の状況に応じた入浴の支援している。状況に応じて清拭・足浴も対応している	利用者が1日置きにゆっくり入浴できるように支援している。希望があれば毎日の入浴も可能で、利用者の状態に合わせて、足浴、清拭等に対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活は自由であり休息の時間を作っている。夜間については、安眠できるようパジャマやパッドの見直ししている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の医療ノートを作成し、情報は詳細に記載している。服薬確認しながら、形状も医師と連携を図っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割分担し、存在価値が見出せるよう支援しており、月に一度外出レクを施行し、楽しみや気分転換を図っている	洗濯物干し、たたみ、食事の準備片付け、掃除、編み物、縫い物、テレビ体操、口腔体操、カラオケ、傾聴や習字などのボランティアとの会話など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度外出レクとして季節感を味わっていただけるよう、季節に合った外出【初詣・花見・海・イルミネーション等）全員でしている。また個別レクとして、肌で風や雰囲気を楽しむ支援している	毎日の食材の買物に職員と一緒に出かけしている。近所の散歩に出かけたり、毎月1回外出レクを行い、みかん狩りやぶどう狩り、季節の花見などに全員で出かけえうなど、戸外に出かけるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て、お金を所持したり使えるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話したり、手紙を書ける支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋作り、ユニット間を自由に行き来でき生活空間を広げている。共有の空間にはたたみを取り入れ、生活感を工夫している。温度調整し快適に過ごせる工夫している	共用空間は天井が高く、広々としていて、天窓からの採光で室内には自然の明るさがあふれている。季節の花を生けたり、利用者の作品や季節感のある工作などを飾り、季節感があるように工夫している。台所からは調理の音や匂いがあり、畳のスペースや食卓、ソファを配置し、生活感が感じられるように五感刺激へ配慮して居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓・ソファ・たたみと気の合った利用者同士が自由に過ごせる工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前の生活通り、違和感なく過ごせるよう使い慣れた家具等持参され違和感のないよう工夫している	使い慣れた家具やベッド、机、テレビ、その他好みの生活用品を持ち込み、壁面には家族との写真や張り紙や習字などの作品も飾って、その人らしく安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりやトイレのプレートが設置され、安全に移動できる工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 秀東館 虹

作成日： 平成 24年 6月 30日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故報告やヒヤリハット報告等、ミーティングにて検討を行っているが、見直し事項について職員全体で周知徹底できていない。	ミーティング等において、職員全体で周知徹底する。(昨年の計画に挙げていたが、周知徹底のため、継続する)	事故報告やヒヤリハット等が出された場合、必ずミーティングにおいて検討し、見直し事項を掲示し職員全員が確認できる体制を整える。	12か月
2	31	医療に連絡する基準が設けられていない。	医療に連絡する基準を定める。(上記同様、昨年の計画に挙げていたが、再度検討の余地ありにて、継続する)	個人の医療ノート作成し、情報の共有化を図り、医師と連携をとりながら、一人一人の具体的な身体基準を明記し、緊急連絡のファイル化する。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。